
PowerChute® Business Edition v6.1.2J

Linux 版 緊急修正モジュール

適用手順書

第 1.1 版



改版履歴

2005/07/22	第 1.0 版	新規作成
2005/08/05	第 1.1 版	誤表記等を一部修正

も く じ

1. 本書について	4
2. 作業の流れ	5
3. 適用対象製品の確認	6
3. 1. インストール形式の確認	6
3. 2. bin ファイルで製品をインストールした場合の確認	7
3. 3. RPM ファイルで製品をインストールした場合の確認	8
4. 修正モジュールの入手	9
5. 修正モジュールの適用	11
5. 1. Red Hat Linux 7.2、Red Hat Enterprise Linux AS/ES (v.2.1 for x86)、TurboLinux 7/8 Server をご使用の場合	11
5. 2. Red Hat Linux 9 をご使用の場合	16
6. 適用完了の確認	23
7. 再設定	24

1. 本書について

本手順書は、2005 年 7 月 28 日以降発生する PowerChute Business Edition v6.1.2J の UPS 監視デーモンが動作しなくなる問題について対処方法をまとめたものです。お使いのシステムに本製品がインストールされている場合、製品の使用中に上記現象が発生した場合、本書の記載にしたがって修正モジュールの適用を実施してください。

本手順書が対象とするのは、弊社より販売している下記の製品です。

- PowerChute(R) Business Edition v6.1.2J Linux 版 パッケージ製品
B5154L6H1

弊社以外からご購入された製品については、各販売元からの案内にしたがってください。

Red Hat は、米国およびその他の国での Red Hat, Inc. の登録商標もしくは商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標もしくは商標です。

本書では、Windows NT(R) Server Network Operating System Version 4.0、Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server、Microsoft(R) Windows Server(TM) 2003 を総称して Windows と表記しています。

本書では、PowerChute(R) Business Edition を PowerChute Business Edition と表記しています。

Microsoft、Windows、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

PowerChute は、American Power Conversion Corporation の米国およびその他の国における登録商標登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

その他、本書に記載されている会社及び製品の名称は、各社の商標または登録商標です。

2. 作業の流れ

- ① お使いの PowerChute Business Edition (以下 PCBE) エージェントが本問題に該当するバージョンかどうか確認します (修正未適用の v6.1.2J であることが明らかな場合は必要ありません)。



- ② 修正モジュールをダウンロードして展開します。



- ③ インストール済みの PCBE エージェントをアンインストールします。



- ④ 修正モジュールをインストールします。



- ⑤ スケジュールシャットダウン等の設定を行います。

※ 本作業に際してシステムを再起動する必要はありません。

※ スケジュールを含めた設定情報は③のアンインストール処理で失われます。⑤の手順で再設定を行なってください。

3. 適用対象製品の確認

- 作業はすべて管理者権限（スーパーユーザー）で実施してください。
- ディストリビューション標準の X Window 環境で作業してください。

3. 1. インストール形式の確認

ターミナル上から以下のコマンドを実行して、PCBE エージェント v6.1.2J の RPM パッケージがインストールされているかどうかを確認します。

```
#rpm -q pbeagent<Enter>
```

A) 対象パッケージがインストールされていない場合

```
パッケージ pbeagent はインストールされていません
```

⇒ 3. 2. bin ファイルで製品をインストールした場合の確認 に進んでください。

B) 対象パッケージがインストールされている場合

```
pbeagent-6.1.0-1
```

⇒ 3. 3. RPM ファイルで製品をインストールした場合の確認 に進んでください。

C) 上記 B)以外の版数のパッケージがインストールされている場合

```
pbeagent-7.0.0-419
```

⇒ 本修正モジュールの適用対象ではありません。作業を終了してください。

3. 2. bin ファイルで製品をインストールした場合の確認

以下の、A)、B)に該当する場合は、修正モジュールの適用が必要です。

なお、インストールディレクトリを初期設定から変更している場合は、次の部分を実際にPCBEエージェントがインストールされているディレクトリに読み替えてください。

```
# cd /opt/APC/PowerChuteBussinessEdition/Agent<Enter>
```



```
# cd {実際の PCBE エージェントのインストール先ディレクトリ}<Enter>
```

A) インストールディレクトリ配下に Version.txt が存在しないこと

ターミナル上から以下のコマンドを実行して、該当するファイルが存在しない旨のメッセージが表示されることを確認します。

```
# cd /opt/APC/PowerChuteBussinessEdition/Agent<Enter>
# ls Version.txt<Enter>
ls: Version.txt: そのようなファイルやディレクトリはありません
```

B) インストールディレクトリ配下に jce1_2_1.jar が存在すること

ターミナル上から以下のコマンドを実行して、該当するファイル名が表示されることを確認します。

```
# cd /opt/APC/PowerChuteBussinessEdition/Agent<Enter>
# cd lib<Enter>
# ls jce1_2_1.jar<Enter>
jce1_2_1.jar
```

3. 3. RPM ファイルで製品をインストールした場合の確認

以下の、A)、B)に該当する場合は、修正モジュールの適用が必要です。

- A) インストールディレクトリ配下に Version.txt が存在しないこと

ターミナル上から以下のコマンドを実行して、該当するファイルが存在しない旨のメッセージが表示されることを確認します。

```
# cd /opt/APC/PowerChuteBussinessEdition/Agent<Enter>
# ls Version.txt<Enter>
ls: Version.txt: そのようなファイルやディレクトリはありません
```

- B) インストールディレクトリ配下に jce1_2_1.jar が存在すること

ターミナル上から以下のコマンドを実行して、該当するファイル名が表示されることを確認します。

```
# cd /opt/APC/PowerChuteBussinessEdition/Agent<Enter>
# cd lib<Enter>
# ls jce1_2_1.jar<Enter>
jce1_2_1.jar
```


4. 修正モジュールの入手

- ① 下記 URL の弊社ダウンロード検索ページで、下記のパラメーターを選択・入力して、[検索開始]ボタンをクリックします。

<http://www.fmwORLD.net/cgi-bin/drviasearch/drviaindex.cgi>

<< 検索するパラメーター >>

製品名:適用するモデル 型名:どの型名を選択してもよい

カテゴリ:添付ソフト OS:OS 指定無し(Windows と Linux を検索)

PRIMERGY > 本製品のサポート&ダウンロード > ダウンロード検索 - FUJITSU Japan - Microsoft Internet Explorer

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

アドレス(D) <http://www.fmwORLD.net/cgi-bin/drviasearch/drviaindex.cgi>

Google Search Web 185 blocked Options

Worldwide | サイトマップ Search

FUJITSU THE POSSIBILITIES ARE INFINITE Japan

ホーム | ニュース | サービス & 製品 | サポート & ダウンロード | お問い合わせ | ショップ

> サービス & 製品 > PRIMERGY > 本製品のサポート&ダウンロード > ダウンロード検索

PRIMERGY (プライマジー)

ダウンロード検索

■ 添付ソフト/ドライバ検索 [<ダウンロード検索のご利用について>](#)

以下の項目を選択してください。製品名 / 型名はアルファベット順に並んでいます。

製品名 (選択してください)	型名 (選択してください)
PRIMERGY TX1 50 S2	PGT2011 4K2
PRIMERGY TX1 50FT S2	PGT2011 4K4
PRIMERGY TX200	PGT2011 4K5
PRIMERGY TX200 S2	PGT2011 4L4
PRIMERGY TX200 クラスタセット	PGT2011 4L5
PRIMERGY TX200FT	PGT2011 4S2
PRIMERGY TX200FT S2	PGT2011 4S5
PRIMERGY TX600	PGT2011 6K

カテゴリ OS

添付ソフト OS指定無し

添付ソフト/ドライバ名称(部分一致可)

検索開始 リセット

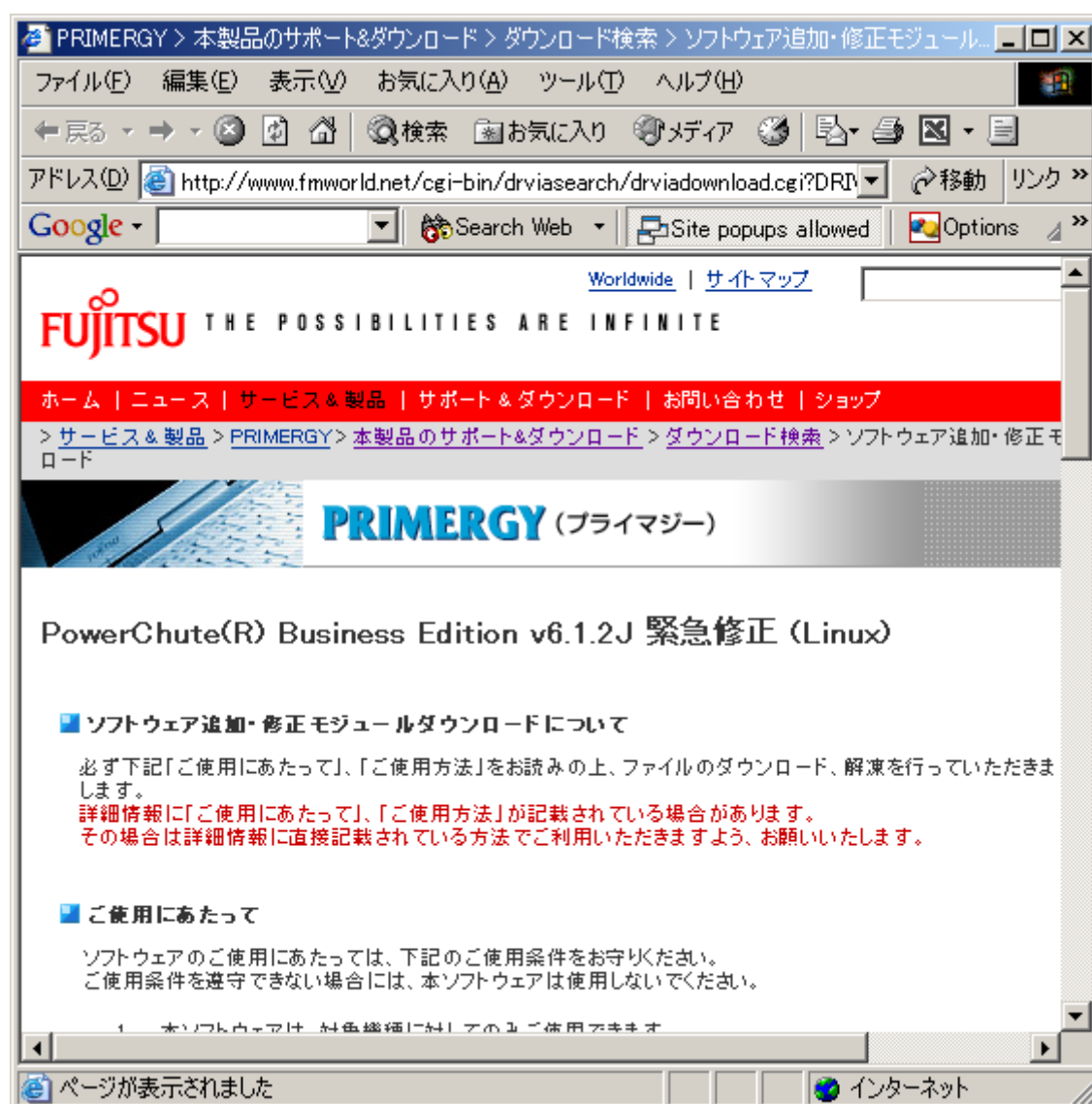
<http://jp.fujitsu.com/services/> インターネット

- ② 検索結果が一覧表示されますので、下記の名称のリンクをクリックします。

PowerChute(R) Business Edition v6.1.2J 緊急修正 (Linux)

- ※ ディストリビューションごとにそれぞれモジュールが登録されていますが、上記名称であればすべて同一のモジュールです。

- ③ 別ウィンドウでダウンロードページが開きますので、ページ中の「ご使用方法」にしたがって修正モジュールをダウンロードし、解凍してください。



5. 修正モジュールの適用

- 必ず管理者権限のユーザアカウント(スーパーユーザー)で作業を行ってください。
- ディストリビューション標準の X Window 環境で作業してください。

5. 1. Red Hat Linux 7.2、Red Hat Enterprise Linux AS/ES (v.2.1 for x86)、Turbolinux 7/8 Server をご使用の場合

- (1) システム上に PowerChute Business Edition v6.1.2J のエージェントがインストールされている場合は、ターミナルから以下のコマンドを実行してアンインストールします。

```
# rpm -e pbeagent<Enter>
```

※一部のファイル・ディレクトリが削除できない旨のメッセージが表示されることがありますが、作業上問題はないため無視して構いません。

- (2) 作業ディレクトリに、修正モジュールのファイルをコピーします。

- (3) 作業ディレクトリにコピーしたファイルを展開します。

```
# gunzip T00575-03.tar.gz<Enter>
# tar xvf T00575-03.tar<Enter>
```

※修正モジュールのファイル名は上記と異なる場合がありますが問題ありません。

- (4) "pbeagent-6.1.0-1.i386.rpm"にアクセス権を設定します。

```
# chmod 555 pbeagent-6.1.0-1.i386.rpm <Enter>
```

- (5) 展開されたファイルを確認します。

```
# ls -l<Enter>
-r--r--r-- 1 root root install.pdf
-r--r--r-- 1 root root readme.txt
-r-xr-xr-x 1 root root 16131796 3月 8 14:37
pbe_agent_redhat_jvm.bin
-r-xr-xr-x 1 root root 15340977 3月 8 14:37
pbeagent-6.1.0-1.i386.rpm
```

※"pbeagent-6.1.0-1.i386.rpm"のアクセス権が -r-xr-xr-x となっていることを確認してください。

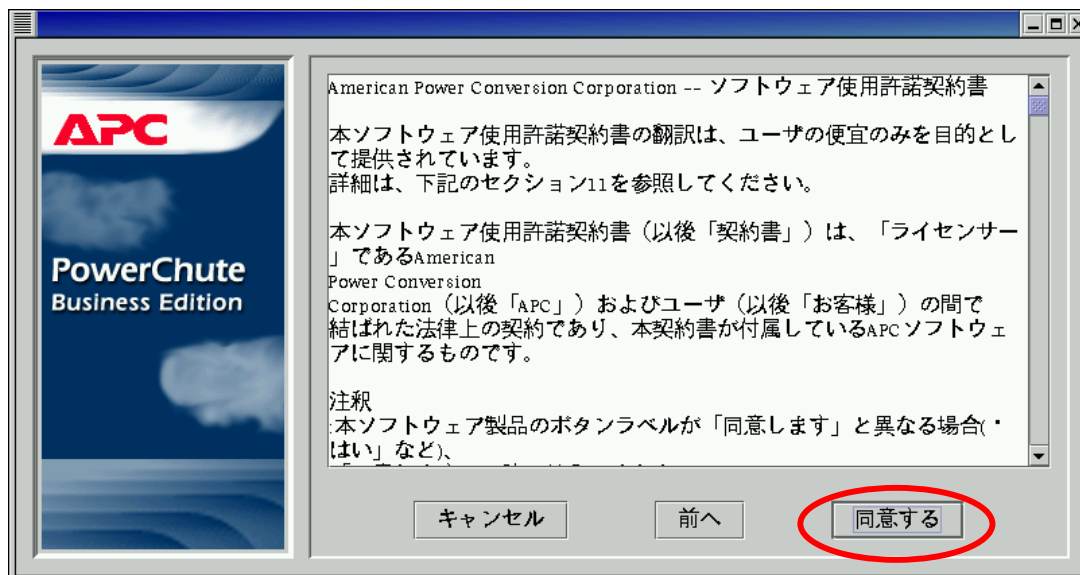
- (6) “pbeagent-6.1.0-1.i386.rpm” を使用し、修正パッチをインストールします。

```
# rpm -ivh pbeagent-6.1.0-1.i386.rpm<Enter>
```

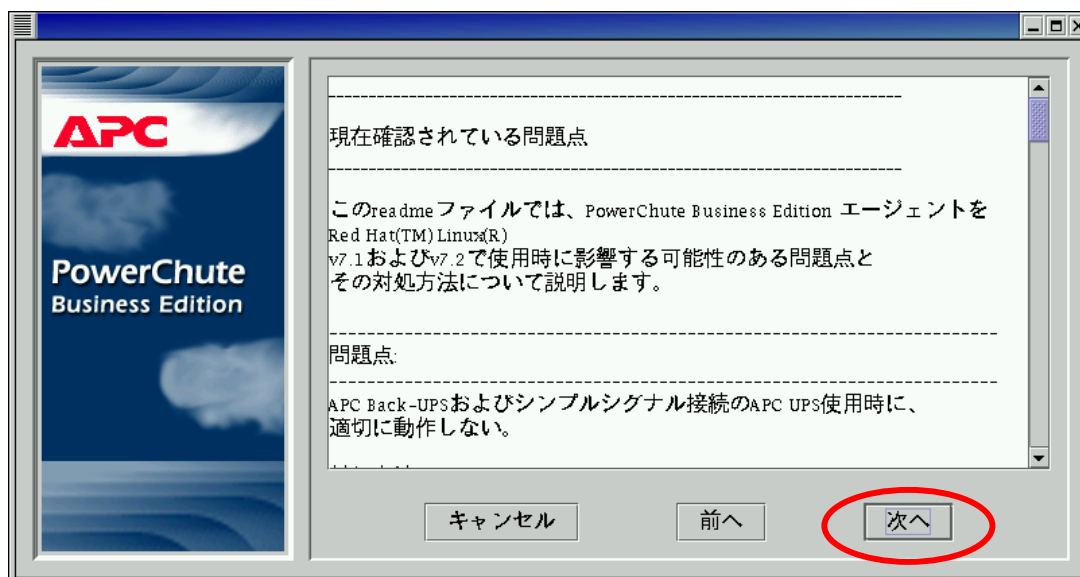
- (7) PowerChute Business Edition エージェント のインストーラが起動しますので、[次へ]ボタンをクリックします。



- (8) 使用許諾契約が表示されますので、内容を確認の上、[同意する]ボタンをクリックします。



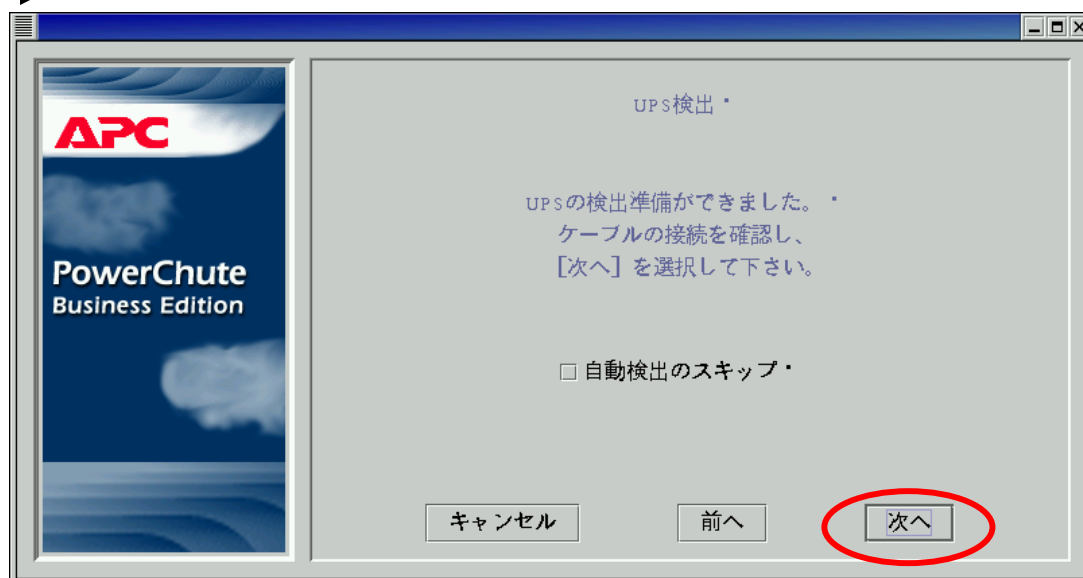
- (9) 現在確認されている問題点が表示されますので、内容を確認し、[次へ]ボタンをクリックします。



- (10) UPS 検出の画面が表示されますので、接続方法に応じて、以下の手順で UPS の機種設定を行います。

a) UPS とサーバを黒色のケーブルで直接接続している場合

➡ そのまま[次へ]ボタンをクリックし、自動検出を実行します。

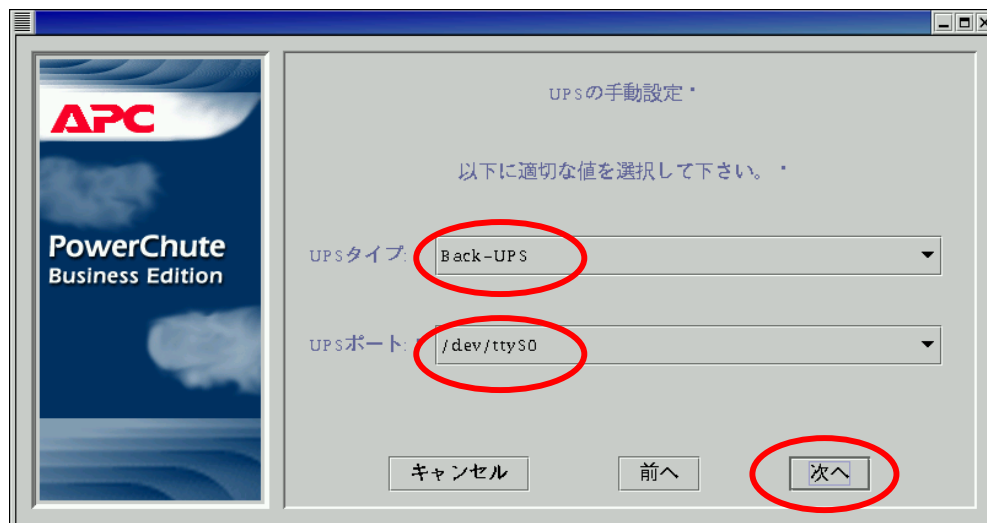
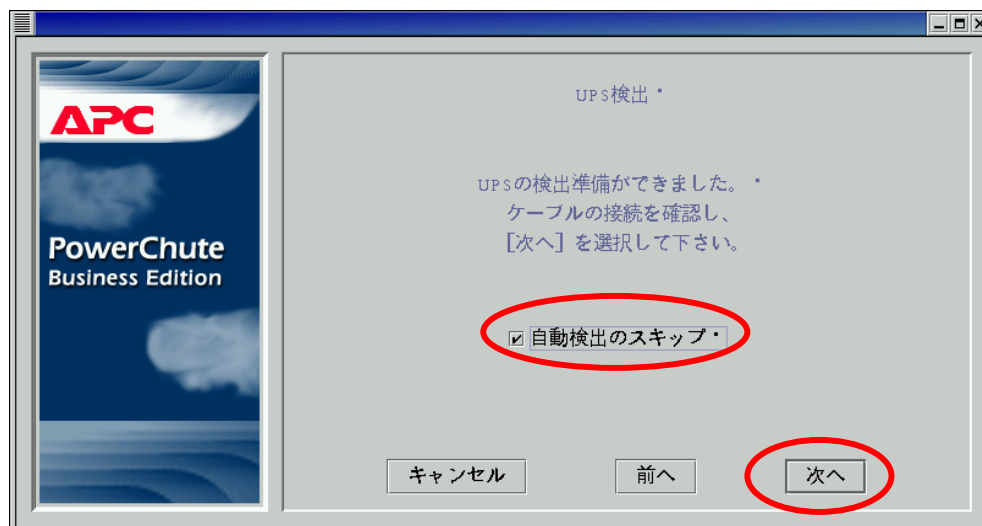


- b) UPS とサーバを UPS 用 RS-232C 拡張ボード(GP5-UPC01)を介して灰色のケーブルで接続している場合

➡ 自動検出が行えませんでしたので、[自動検出のスキップ]のチェックをオンにして[次へ]ボタンをクリックし、下記の項目を選択します。

UPS タイプ : Share-UPS(Simple)

UPS ポート : UPS を接続しているシリアルポート

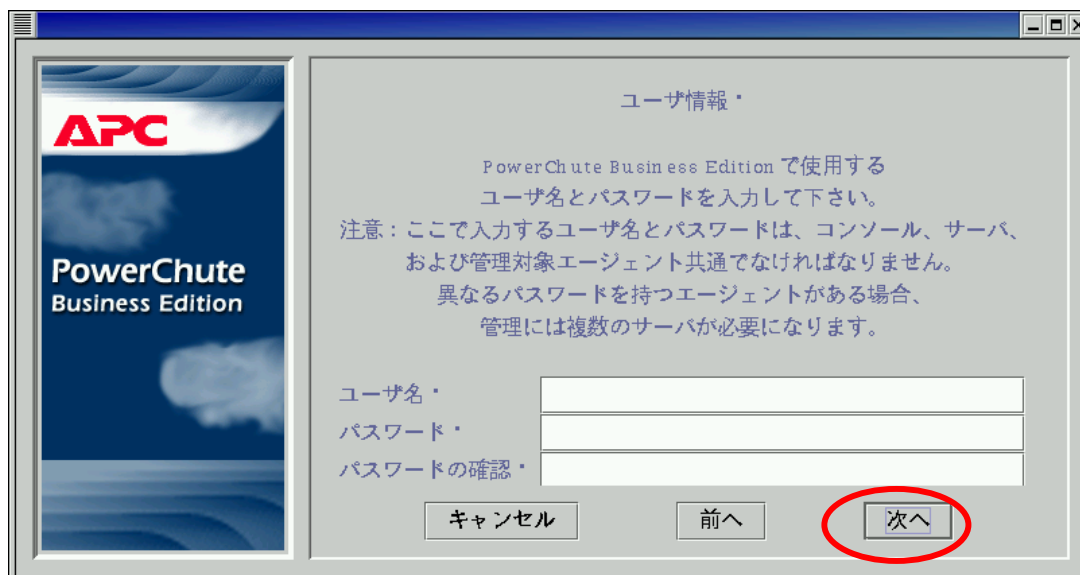


(11) UPS の機種設定を確認し、[次へ]ボタンをクリックします。

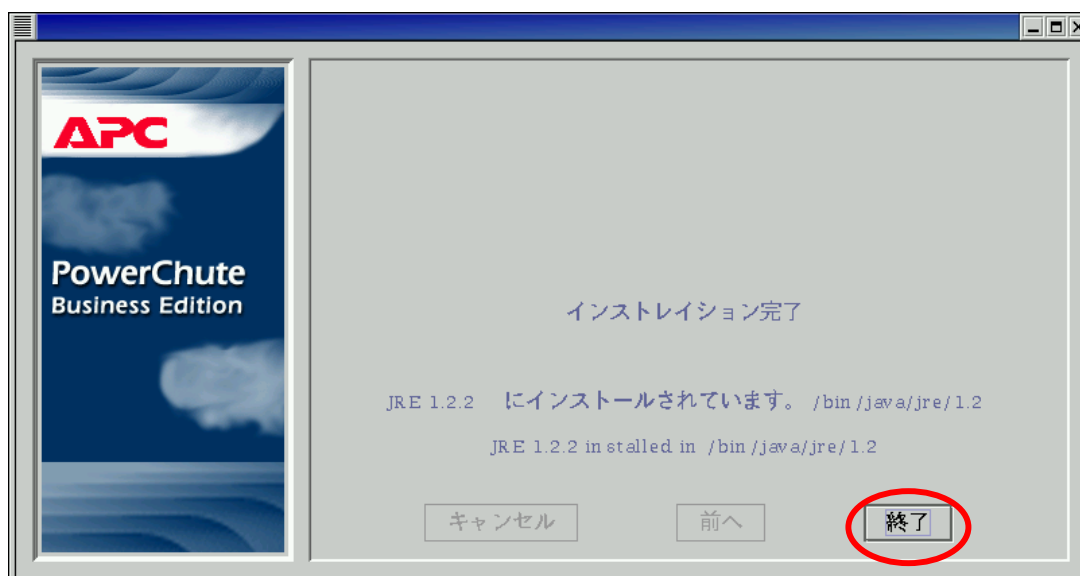
(12) PCBE エージェントの管理に使用するユーザ名とパスワードを設定します。

登録先の PCBE サーバと同一のユーザ名とパスワードを設定してください。

ユーザ名とパスワードを入力したら、[次へ]ボタンをクリックします。



(13) インストレーション完了の画面が表示されますので、[終了]ボタンをクリックし、インストーラを終了させます。



5. 2. Red Hat Linux 9 をご使用の場合

- (1) システム上に PowerChute Business Edition v6.1.2J のエージェントがインストールされている場合は、以下にしたがってアンインストールします。

- 1) ターミナルから下記のコマンドを入力してアンインストーラを起動します。

```
# cd /opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent<Enter>
# ./uninstallPowerchutebusinessEditionAgent<Enter>
```

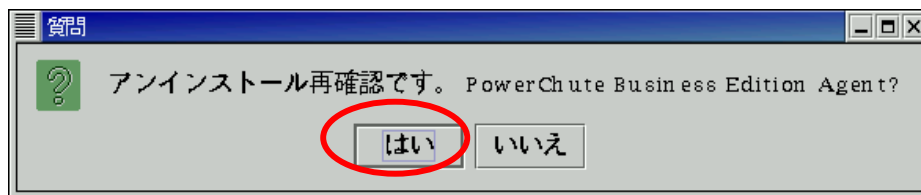
なお、インストールディレクトリを初期設定から変更している場合は、次の部分を実際に PCBE エージェントがインストールされているディレクトリにお読み替えてください。

```
# cd /opt/APC/PowerChuteBusinessEdition/Agent<Enter>
```

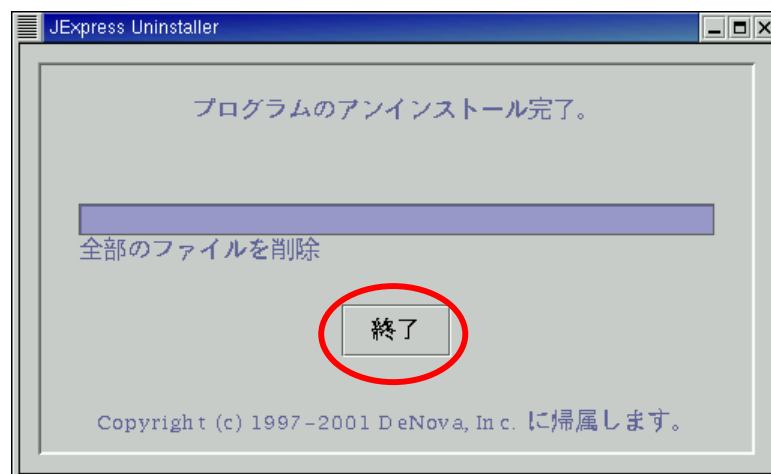


```
# cd {実際の PCBE エージェントのインストール先ディレクトリ}<Enter>
```

- 2) アンインストール再確認のダイアログが現れるので、[はい]ボタンをクリックして、アンインストール処理を実行します。



- 3) プログラムのアンインストール処理が完了したら、[終了]ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。



※一部のファイル・ディレクトリが削除できない旨のメッセージが表示されることがありますが、作業上問題はないため無視して構いません。

- (2) 作業ディレクトリに、修正モジュールのファイルをコピーします。

- (3) 作業ディレクトリにコピーしたファイルを展開します。

```
# gunzip T00575-03.tar.gz<Enter>
# tar xvf T00575-03.tar<Enter>
```

※修正モジュールのファイル名は上記と異なる場合がありますが問題ありません。

- (4) “pbe_agent_redhat_jvm.bin”にアクセス権を設定します。

```
# chmod 555 pbe_agent_redhat_jvm.bin<Enter>
```

- (5) 展開されたファイルを確認します。

```
# ls -l<Enter>
-r--r--r-- 1 root root install.pdf
-r--r--r-- 1 root root readme.txt
-r-xr-xr-x 1 root root 16131796 3月 8 14:37
pbe_agent_redhat_jvm.bin
-r-xr-xr-x 1 root root 15340977 3月 8 14:37
pbeagent-6.1.0-1.i386.rpm
```

※“pbe_agent_redhat_jvm.bin”のアクセス権が -r-xr-xr-x となっていることを確認してください。

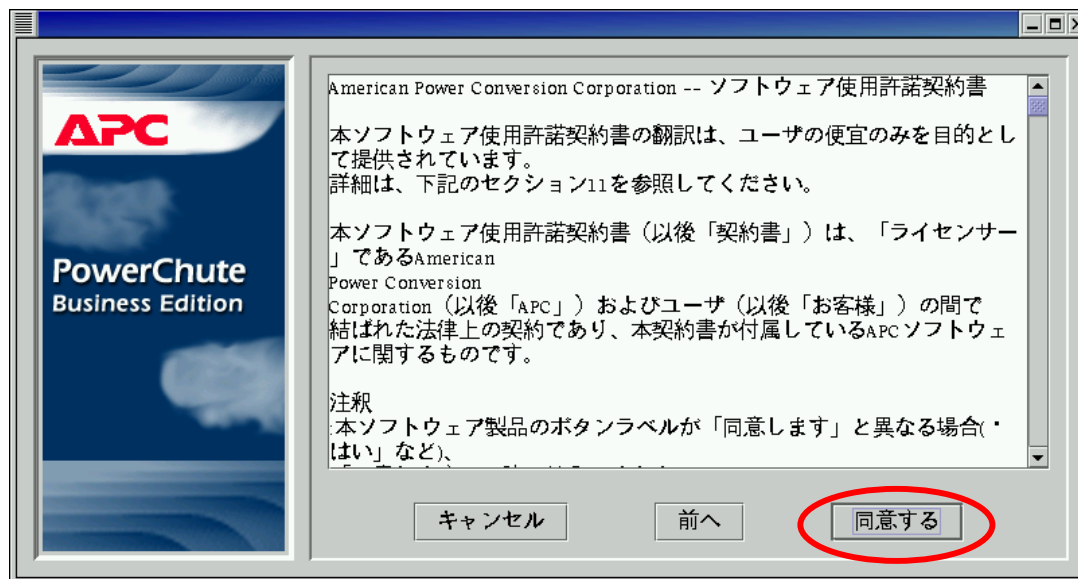
- (6) “pbe_agent_redhat_jvm.bin”を実行して修正パッチのインストーラを起動します。

```
# ./pbe_agent_redhat_jvm.bin<Enter>
```

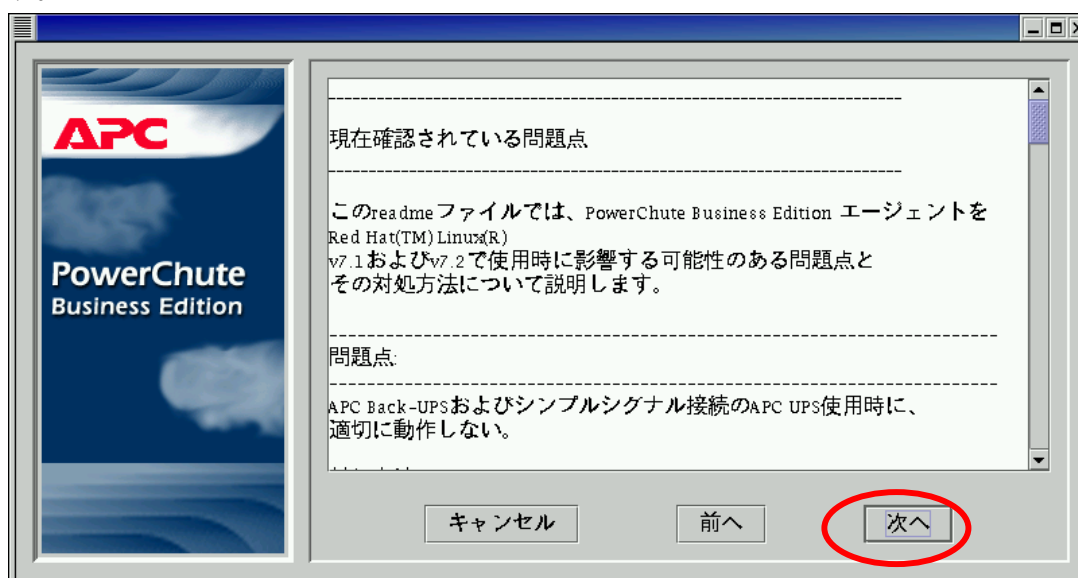
- (7) PowerChute Business Edition エージェント のインストーラが起動しますので、[次へ]ボタンをクリックします。



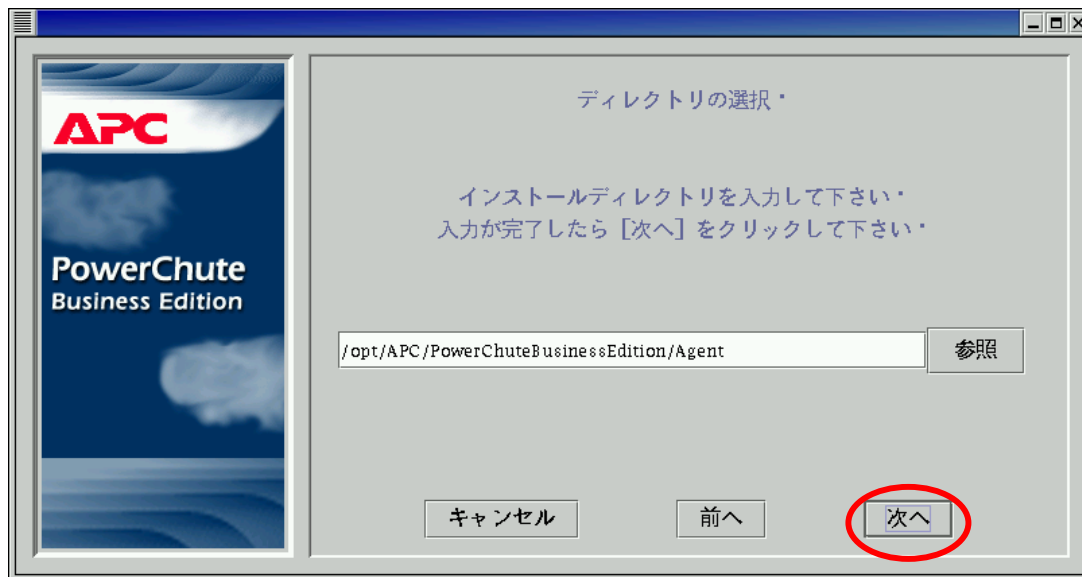
- (8) 使用許諾契約が表示されますので、内容を確認の上、[同意する]ボタンをクリックします。



- (9) 現在確認されている問題点が表示されますので、内容を確認し、[次へ]ボタンをクリックします。



(10) インストールディレクトリを指定し、[次へ]ボタンをクリックします。

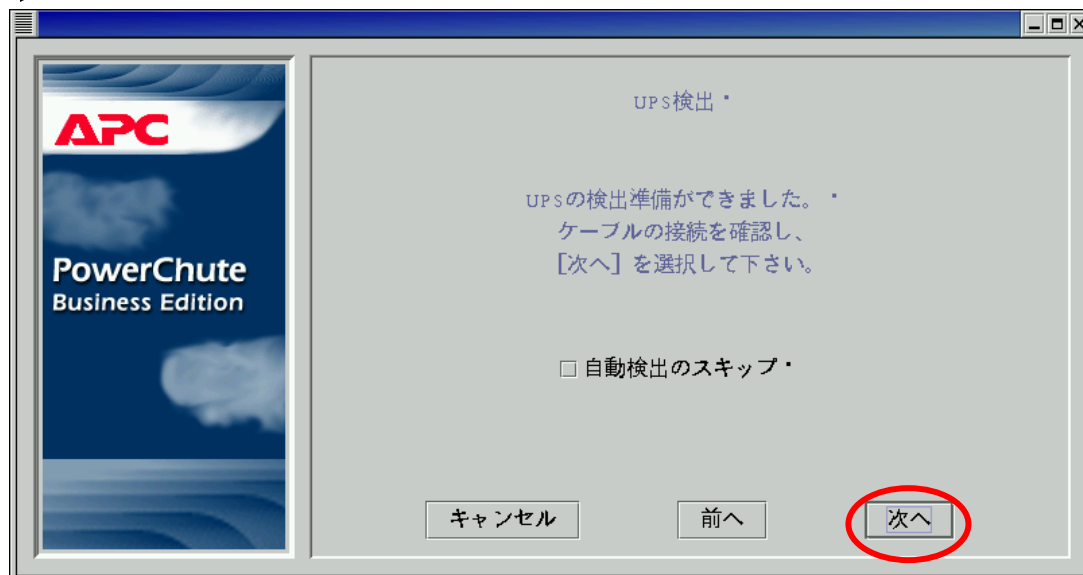


※特別な事情がない限り、インストール先はデフォルト設定のままにすることを推奨します。

(11) UPS 検出の画面が表示されますので、接続方法に応じて、以下の手順で UPS の機種設定を行います。

a) UPS とサーバを黒色のケーブルで直接接続している場合

➡ そのまま[次へ]ボタンをクリックし、自動検出を実行します。

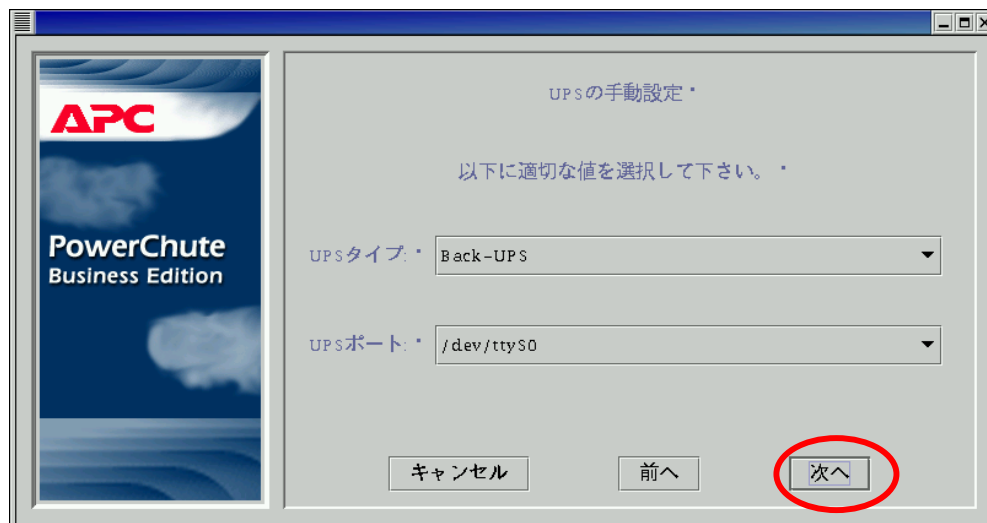
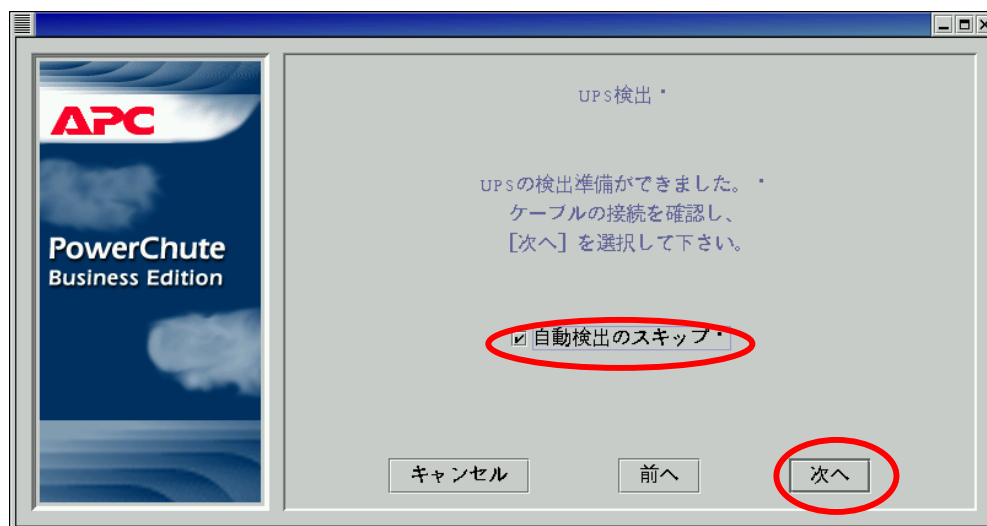


b) UPS とサーバを UPS 用 RS-232C 拡張ボード(GP5-UPC01)を介して灰色のケーブルで接続している場合

➡ 自動検出が行えませんでしたので、[自動検出のスキップ]のチェックをオンにして[次へ]ボタンをクリックし、下記の項目を選択します。

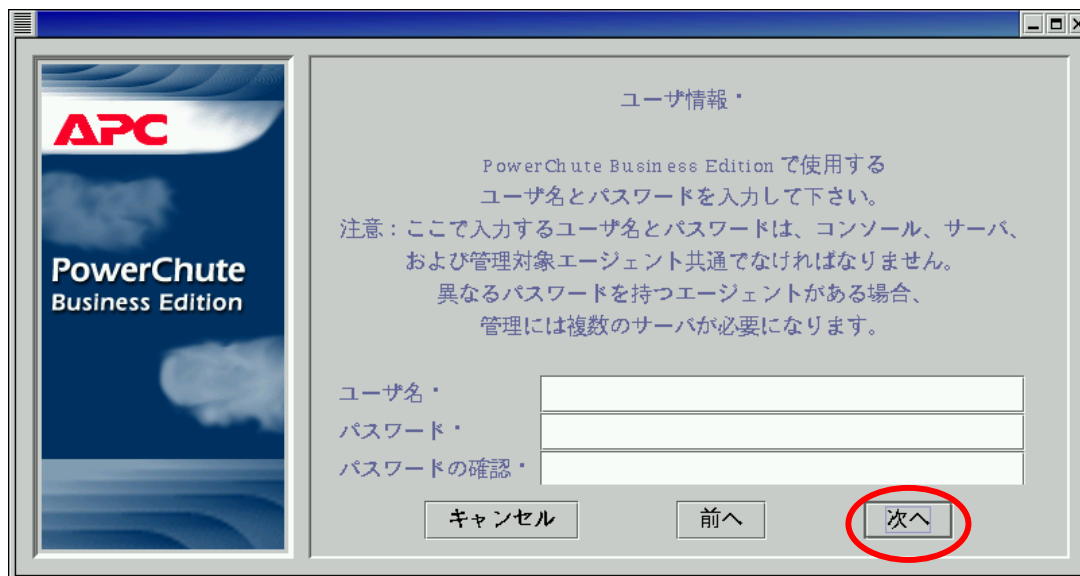
UPS タイプ : Share-UPS(Simple)

UPS ポート : UPS を接続しているシリアルポート

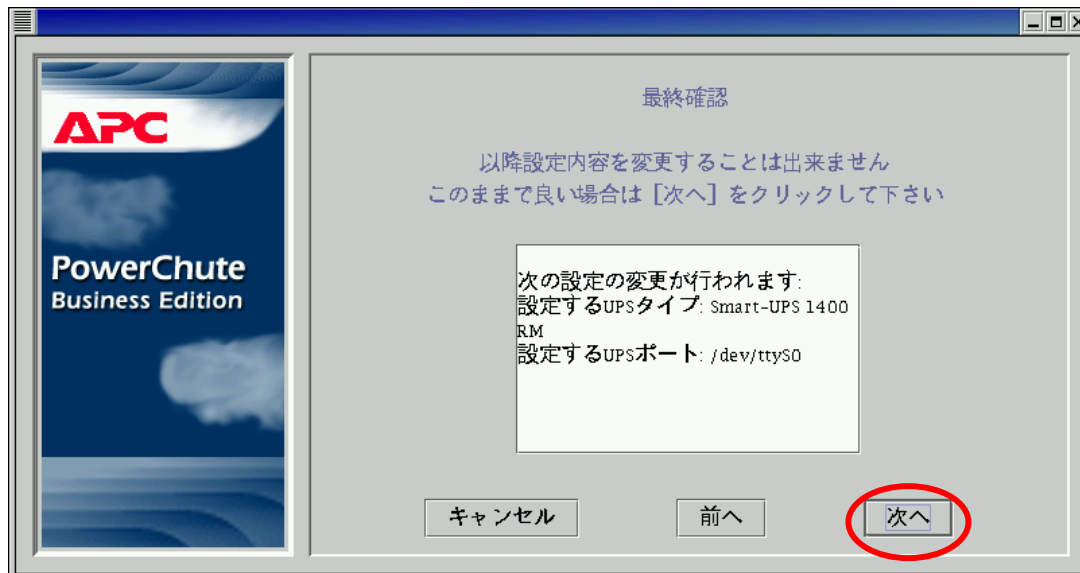


(12) UPS の機種設定を確認し、[次へ]ボタンをクリックします。

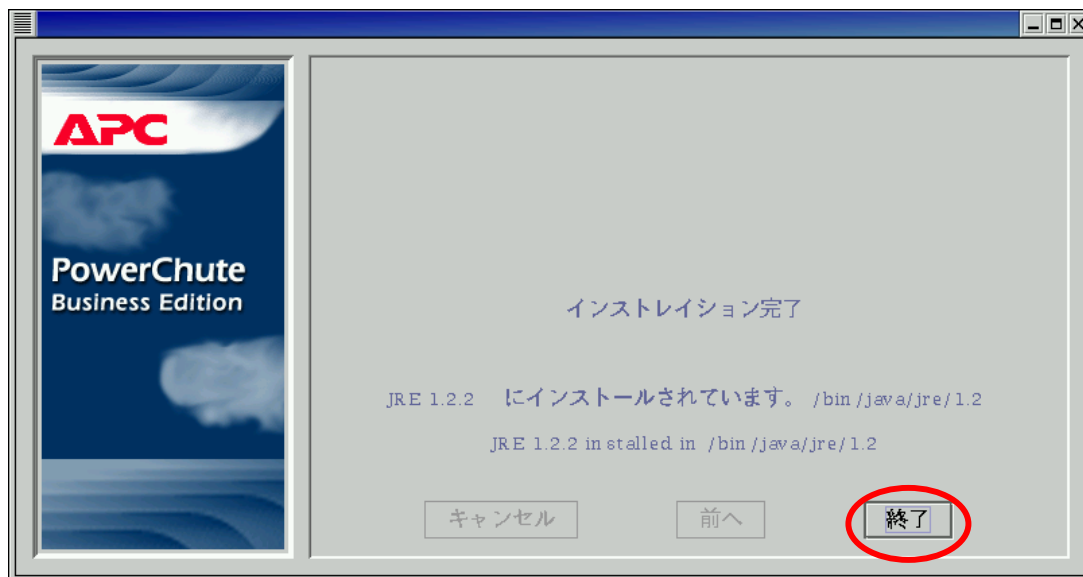
- (13) PCBE エージェントの管理に使用するユーザ名とパスワードを設定します。
登録先の PCBE サーバと同一のユーザ名とパスワードを設定してください。
ユーザ名とパスワードを入力したら、[次へ]ボタンをクリックします。



- (14) 最終確認の画面が表示されますので、設定内容を確認し問題がなければ[次へ]ボタンをクリックします。



- (15) インストール処理の完了後、インストレーション完了の画面が表示されますので、[終了]ボタンをクリックし、インストーラを終了させます。



6. 適用完了の確認

本修正パッチのインストールディレクトリ配下に修正版識別ファイルのファイルが存在し、内容が「PowerChute Business Edition v6.1.0.1」であることを確認してください。

```
# cd /opt/APC/PowerChuteBussinessEdition/Agent<Enter>
# ls Version.txt<Enter>
Version.txt
# cat Version.txt<Enter>
PowerChute Business Edition v6.1.0.1
```

なお、Red Hat 9 における bin ファイルからのインストールで、インストールディレクトリを初期設定から変更している場合は、次の部分を実際に PCBE エージェントがインストールされているディレクトリに読み替えてください。

```
# cd /opt/APC/PowerChuteBussinessEdition/Agent<Enter>
```



```
# cd {実際の PCBE エージェントのインストール先ディレクトリ}<Enter>
```

7. 再設定

必要に応じて、PCBE エージェントの再設定を行ってください。

Windows 上から PCBE サーバ・PCBE コンソールによる集約管理を行っている場合は、Windows 版 PowerChute Business Edition v6.1.2J の緊急修正 TP07528 を入手の上、『Windows 版の緊急修正モジュール 適用手順書』にしたがって Windows 上のコンポーネントにも修正を適用し、すべての PCBE エージェントおよび PCBE サーバに対して修正モジュールを適用した後に、Windows 上の PCBE コンソールよりスケジュール等の設定を行ってください。

PowerChute® Business Edition v6.1.2J
Linux 版 緊急修正モジュール 適用手順書
第 1.1 版

発行日 2005 年 8 月
発行責任者 富士通株式会社

- 本書の内容は、改善のため予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容にしたがって作業を実施した結果発生したすべての問題について、当社は一切の責を負いません。
- 本書の著作権は富士通株式会社が有します。